

第5回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会

平成27年5月8日(金) 午後3時から
人吉市役所 本庁舎 三階 第一会議室

会議次第

1 開会

2 課長挨拶

3 会長挨拶

4 議事

(1) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)に係る意見募集(パブリックコメント)について【資料①】

(2) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)の修正及び最終確認について

(3) 今後のスケジュールについて【資料②】

5 閉会

第5回人吉球磨定住自立圏 共生ビジョン懇談会出席者名簿

人吉球磨定住自立圏 共生ビジョン懇談会委員(敬称略)

No	団体名(所属)	役職名	氏名(フリガナ)	No	団体名(所属)	役職名	氏名(フリガナ)
会長	熊本県立大学 総合管理学部	教授	イダ 井田 貴志	11	岩野保育所 保護者会	会長	ミネモト 米本 宗徳
副会長	多良木町文化協会	会長	タケハラ 竹原 篤子	12	水上村社会福祉協議会	福祉活動専門員	ツツミ 堤 祐子
3	人吉市医師会	会長	トヤマ 外山 博之	13	相良村商工会	青年部長	フルカワ 古川 秀次
4	人吉温泉観光協会	副代表理事	トリゴシ 鳥越 英夫	14	相良村有害鳥獣捕獲隊	隊長	ホリカワ 堀川 泰注
5	球磨焼酎酒造組合	理事	シメダ 下田 文仁	15	五木村観光協会	事務局長	シママキ 島巻 恵里
6	くま川鉄道株式会社	取締役総務部長	フカミズ 深水 雄二	16	NPO法人 かちやリンクやまえ	専務理事	モトヤマ 本山 民子
7	球磨地域農業協同組合 中央営農センター	センター長	ワタセ 渡瀬 幸一	17	山江村民生委員児童委員 協議会	会長	ナカムラ 中村 征生
8	人吉球磨地域女性農業委員 ネットワーク	会長	イシマツ 石松まゆ子	18	球磨村森林組合	参事	シメ 蒨 初美
9	湯前町区長会	会長	ヤナセ 柳瀬 鐵男	19	あさぎり町深田校区婦人会	会長	シラキ 白柿 悦子
10	湯前町文化財保護委員会	委員長	シノダ 溝下 昌美	20	あさぎり町農業女性の会	会員	ミヤハラ 宮原 久子

人吉球磨定住自立圏 推進協議会 幹事会(オブザーバー)(敬称略)

団体名(所属)	役職	氏名(フリガナ)	団体名(所属)	役職	氏名(フリガナ)
錦町 企画観光課	課長	フジヨシ 藤芳 純	球磨村 企画振興課	課長	カナクリ 金栗 邦代
多良木町 企画観光課	主事 (課長代理)	シンボリ 新堀 理絵	あさぎり町 企画財政課	課長	カンダ 神田 利久
湯前町 総務課	課長	シラカワ 白川 一雄	熊本県 総務部 市町村課	主任主事	ナカマ 中間 鉄矢
水上村 総務課	課長	ナス 那須 利広	県南広域本部 振興課	参事	ナガセ 長瀬 健太郎
相良村 総務課	課長	サカグチ 坂口 和良	熊本県 県南広域本部 球磨地域振興局 総務振興課	審議員兼課長	ナカガワ 中川 博文
五木村 総務課	課長	クロキ 黒木 一秀	〃 〃	参事	タチバナ 立花 ちどり
山江村 総務課	課長	トヨナガ 豊永 友満			

人吉球磨定住自立圏 推進協議会 事務局

団体名(所属)	役職	氏名(フリガナ)
人吉市 総務部 企画財政課	課長	マルモト 丸本 昭
〃 〃 〃 行政経営係	課長補佐	モリシタ 森下 弘章
〃 〃 〃 〃	主幹	ハヤシダ 林田 考功
〃 〃 〃 〃	主事	ウエエタケ 植竹 明日香

【事務局の所在地及び連絡先】

〒868-8601
 人吉市麓町16番地 人吉市
 総務部 企画財政課 行政経営係
 TEL:0966-22-2111(内線2122)
 FAX:0966-24-7869
 Email:kikakuzaisei@city.hitoyoshi.lg.jp

人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)に関するパブリックコメント(意見募集)一覧

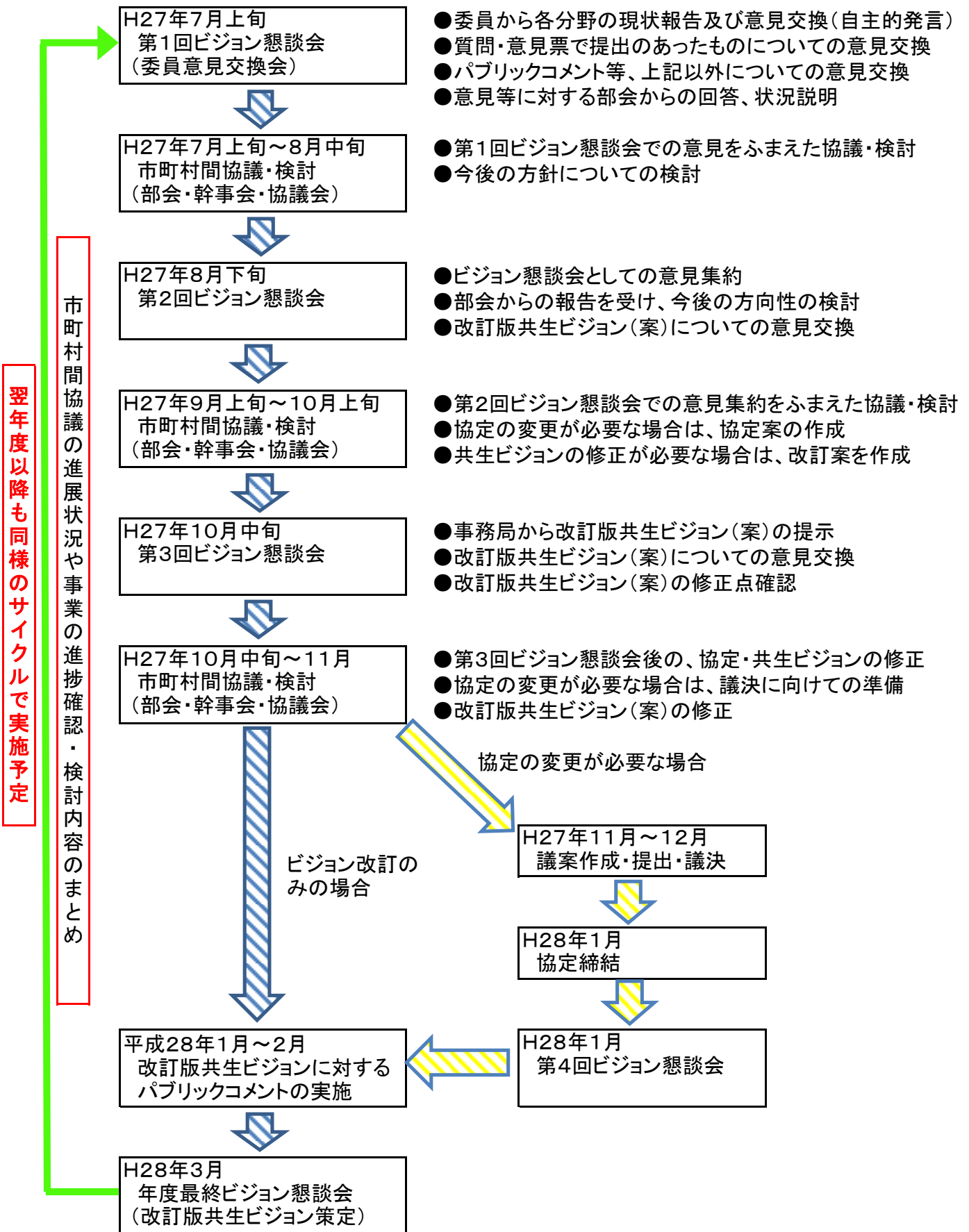
資料①

分野	御意見	考え方	ビジョン(案)への反映状況
保健・医療	<p>少子高齢化が進む中で、定住自立圏を目指し10市町村による基本構想が出来た事は、大変喜ばしい。</p> <p>私は関西で41年間暮らしており、平成28年4月には田舎にUターンして生活の拠点を構える予定だが、このような構想があれば安心して帰省できる。</p> <p>「中期5カ年計画」の中では、緊急医療体制の充実が重点施策に挙げられていると思う。医療の充実により地域の特性を活かして、Uターン及びIターンによる定住人口の増加へと実現していくのではないかと。</p> <p>基本構想により施策を展開し、本計画を達成される事を願っている。</p>	<p>医療体制の充実は、定住に必要な大きな要因のひとつと認識しております。</p> <p>定住自立圏構想においても重視すべき項目ですので、圏域住民への医療サービスの充実に向けて、体日在宅当番医制運営事業、内科専門診療体制の運営事業、産科・小児科医療体制維持検討・支援事業、発達小児科医の圏域医療機関での確保などを推進し、今後、更なる充実に向け、連携して取り組んでいきたいと考えております。</p>	なし
新規	6次産業製品の販売拡大として、道の駅を人吉球磨10市町村(広域行政組合)で九州自動車道山江サービスエリアに造り、出店してはどうか？		
新規	別紙①のとおり		
新規	別紙②のとおり		
新規	別紙③のとおり		
新規	別紙④のとおり		

第4回ビジョン懇談会で報告済み

今後のスケジュール(2年目以降の進め方)

資料②



定住圏自立構想 ご提案

1

例えば、

病気は風邪なのに
ガンと誤診した場合、
与える薬は効かない
それどころか
副作用を起こす。

3

それが解決策とすれば
問題は何か？

P.F ドラッカー

2

問題



解決策

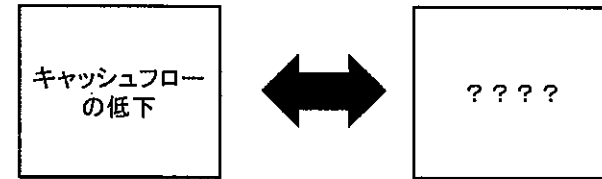
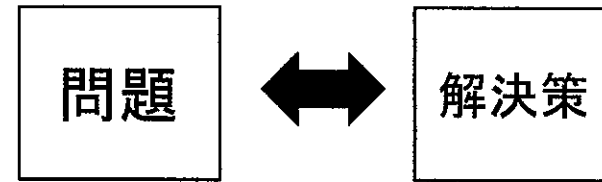
2

4

重要なのは、
解決策を先に考えるのではなく
問題を特定させること

人吉球磨の
問題は何か？

5



7

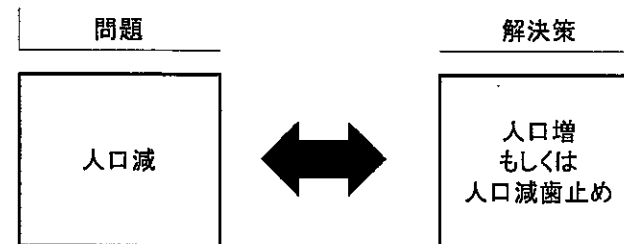
問題は？



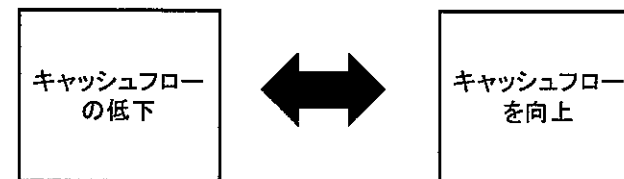
キャッシュフローの低下

注：人口減が問題でなく、キャッシュフロー低下が問題

6



問題の特定によって、解決策が変わる



8

人吉球磨において
キャッシュフローを向上させ、
そしてキャッシュフロー向上を継続させる政
策



観光 インバウンド政策

9

観光政策を優先政策にする理由

市町村を超え、業種を超えて
人吉球磨全体多岐にわたって好影響を与える

地方マーケティング上最大の武器である
「歴史」が人吉球磨全域に渡っており、
広域観光が達成しやすい→全域に貢献

日本遺産認定
政府が国家プロジェクトとしてフォロー

労働集約型ビジネス→若者からお年寄りまで一部でな
く多数の市民への貢献→労働人口増加

キャッシュフロー向上達成が短期間で見込め
さらに長期的に継続する可能性

11

キャッシュフローの定義

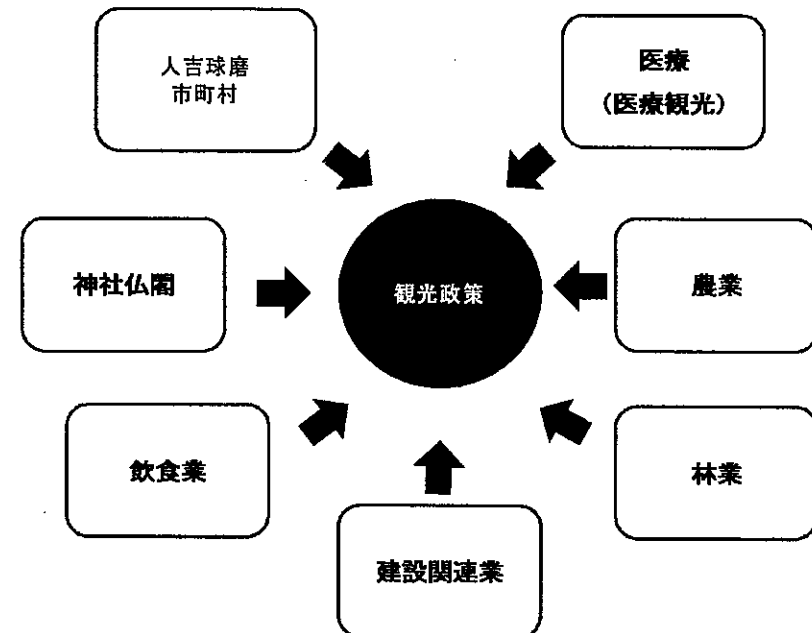


ここでのキャッシュフローとは
外貨(人吉球磨以外からのフローイン)であり
人吉球磨内部で回すフローを指していない。

キャッシュフローが低下している原因の1つ
(つまり必要条件)が人口減であるが、十分でない(必要かつ不
分)。あくまで、人口減はキャッシュフロー低下原因の1つであり、
人口減によってすべてを引き起こしているわけではない。

注:地産地消はおそらく政策として失敗。
地産地域内外消が正しい。

10



12

人吉球磨観光ビジネスにおける 解決すべき課題



地域・業種を超えた「横串しの活動」

以前より、ずっと言われ続けた課題。
なぜ解決できないのか？

13

活動する者が
いなかった。

14

なぜ、活動する者がいなかった？

マインド(やる気)+資金+権限
を持つ機関・人の存在

もしくはそれらをバックアップ
してくれる機関・人がいない
+

やり方がわからない。

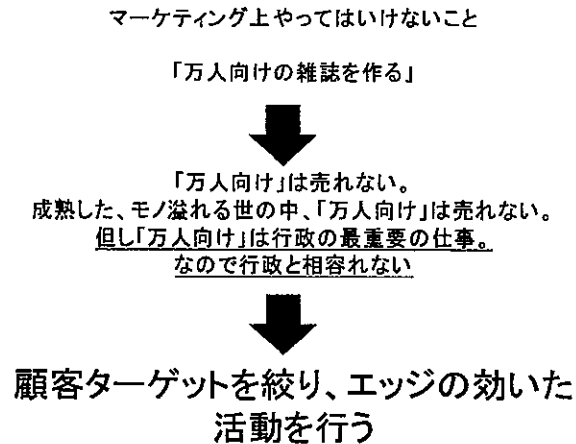
15

提案(解決策)

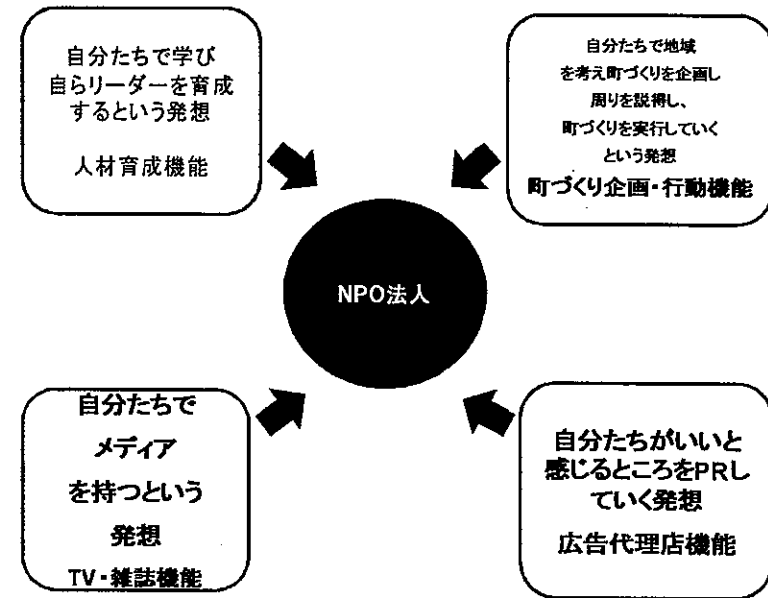
官を支援(権限+資金)にした
民間(NPO)による
企画からPRまで
一貫した活動

16

なぜ、民間？



17



19

ご注意！

外部(都会)から、今流行りのマーケティング・コンサルや、高いフィーの広告代理店など契約する必要もないし、やってはいけない。

なぜなら、自分たちの地域は自分たちで考えて、地域を作り、売るべき。

都会のコンサル連中は高いカネを巻き上げて責任とらずに逃げていく。

マーケティング・PRや地域合意形成技術は自分たちで学んで実践するのが良い。
それが地域リーダー育成にもなる

18

NPO法人による活動計画

- 1 人吉球磨全域若手中心にNPO法人を立ち上げる
- 2 まず、マーケティング・PR・ファシリテーションなど必要な技術をプロから学ぶ
- 3 実践する。日本遺産を軸に、PR活動など。短期間で成果を見せる→住民・関係者への町づくり説得材料
- 4 将来にわたる町づくり企画を開始し、住民を巻き込む・みなで考える作業を開始する
- 5 インバウンド長期政策を決定し、行政に実行してもらう

20

中核問題を特定させることの 意義

「人吉球磨地域における人口低下」が問題という場合

「若者が都会へ行く理由」を答えられない。

なぜなら、「人口が低下している」ので「若者が都会へ行く」
というロジックが弱いと感じられないだろうか？

「人吉球磨地域におけるキャッシュフローが低下している」ので

「若者が都会へ行く」という説明のほうが

納得感があるのではないかと？

最後まで
お読みいただき
ありがとうございました。

人吉球磨定住自立圏共生ビジョン（案）についての

ご意見 記入用紙

1 ご住所

2 ご氏名

(法人その他の団体にあつては、所在地、名称及び代表者の氏名)

ご意見

育児期の人、学生、勤労者、定年退職者、高齢者、とどの世代の者もそれぞれに、今の土地に安心して長く、楽しく、住み続けられること、そして、自分の次世代の者たちも同様に暮らせることを願わないものは居ないでしょう。

人吉市を中心市とする周辺9町村から構成される定住自立圏での共生ビジョンを見て感じたことを率直に述べます。

高齢者として、①最も関心があるのは医療・介護体制の充実です。特に高度医療（心臓病、脳梗塞、など）の対応可能性、医師の技術水準の問題などです。圏域外に移住している大半の人の理由はこの点に関係していると推定します。

②モータリゼーションの弱者でもある我々は、買い物、通院、イベント参加などなど、社会との交流機会の弱者でもあります。バスや、鉄道が走っているのを見ると、まるで空気を運んでいるような感じがするので、それならば、高齢者の10人やそこらを（無料が無理ならば）極安料金で運んでくれても損益にはほとんど影響はないのではとつくづく思われるのです。圏域住民の健康寿命の増進にも間接効果として寄与するのではないのでしょうか。

③コミュニティバスが各地で採用されているようですが、単独の基礎自治体で運行するよりも、生活路線の共通する経路で、関連町村を超えて、運行する方が実用性が高いのではと考えます。また、運転時刻なども、他の公共交通機関などと連携して設定してほしいと常々感じています。十分に緻密に設定されたアンケート等で実情を把握する必要があるでしょう。（別紙に続けます。）

(続き)

次にぜひ述べたいのが、圏域内を貫流する球磨川流域に関してです。

①清流とよく呼称されていますが、昔の面影は全くありません。辛うじて大支流の川辺川が清流を維持しているのみです。

汚れた川を回復させた例は多摩川などいろいろありますが、流域住民のその川に対する深い愛着に裏付けられていると思います。川を回復させるために様々な取り組みが流域住民によって行われ、川は回復したのです。四国の四万十川では、天然ウナギが獲れるそうですが、球磨川でもウナギが面白いように小さな水路でも獲れたことが私の遠い記憶に残っています。“球磨川産天然ウナギ”なんと心地よい響きでしょう。

他人が容易に真似をできるような取り組みは、みんなもすぐ始めるので、特産品でもなんでもなくなります。そのものの開発に取り組む時間と努力（失敗や試行錯誤）の蓄積が、決め手となります。四万十流域の人にできたようなことが球磨川流域の人にできないわけではないと思います。

球磨川を本物の清流に戻す取り組みを環境対策の柱とするため「球磨川清流条例」を設定することを望みます。まず流域における生物多様性の回復を目指し、最終目標が“球磨川の天然ウナギ”です。

短期間では“清流球磨川”は戻せないでしょうが、流域住民が真にその必要性を感じて目的達成まで取り組み続けることができれば、子の時代あるいは孫の時代には取り戻せると確信しております。

取組の要は、流域住民がそれぞれの生活・生産活動の中で、川を汚すような水を流し出さない努力をすることです。川を汚さない取り組みの具体的事例を皆で学習する方向もいろいろとあると思います。

農業用水路について

②幸野溝と百太郎溝はいずれも“日本疎水百選”に選ばれた農業土木遺産です。この滔々と流れる水を観光はもとより、地域エネルギー源として現代風に活用しない手はないと考えます。特に、湯前にある古城台地の下に掘りぬかれた貫（ぬき）は当時の暗渠工事として最長に近いものと言われています。有名な通潤橋より約1世紀も早く工事され、灌漑面積（実用面）では幸野溝や百太郎溝のほうがはるかに広域です。この圏域の農業を基礎から支えてきた施設です。小規模の資料館ぐらい作ってもいいのではと考えています。

以上のこと（趣旨）をビジョンの適切なところに加えてください。

1. 住所
2. 氏名

意見

1. はじめに

人吉球磨圏域の人口減少の歯止め、所得の増進、活性化された人々が集う活力ある故郷創りを目指し、以下に提案します。

2. 文化遺産と観光資源の活用

圏域は平安期以降からの文化遺産が多く残されています。これらの有効活用を推進します。

①実態調査と把握

寺社・仏像・寺院施設など、文化財の情報・経緯・時代など詳細な調査を行い、実態を正しく把握し、今後の活動の資料基本とします。また、後世残せる資料をこの時期に創ることは喫緊の課題でもあります。

調査で得られた結果は、限られた圏域で実在する仏像などの数・密度を数値化、指標化し、メディアを通じたPRを行います。

対人口比の密度の数値化では、奈良などと比較する方法も有効です。これらは、ギネスブックに載る可能性もあるのではないのでしょうか。

県内の85%の文化財が圏域にあることも材料になります。

これらの活動を通じて、国内の小京都と呼ばれる外の地域との差別化を図ります。又、圏域の、観音さん参りにも箔をつける事が出来、他の地域で興されている観音様巡りの追従を許さないものにします。

②圏域住民の連帯意識の醸成

圏域の歴史的形成を周知し、より身近に故郷を感じるようにする。

圏域の誇りと情報共有化を図るために、より広範な歴史形成を周知します。

周知概要は、

- ・人吉盆地は湖であった事。球磨川は鹿児島へ流れていたこと。
- ・球泉洞あたりの堤が破れて、今の球磨川になったこと。

その後、球磨川と川辺川で削られて、今の高原などの大地が残った。

- ・球磨川・川辺川の支川で農耕文化が始まったと思われること。

33観音もこれらの支川流域に現存すること。

などなど。

一方、幸野溝・百太郎溝は、後年の開設なので、ここらには観音様は少ない。

(江戸時代初めには、既に観音様は今のところに居られたと思われる。古いのでは。)

これらの時期の人口などの変遷を年表方式に表現・提示することで、人口減少や当時の生活に思いが至るのでは。

百太郎溝や幸野溝ができる以前の人口推定を、最新の地理情報技術（赤色立体図）で農業生産可能面積と、当時の農業生産技術より単位面積当たりの収量を組み合わせた調査検討により、あらかじめ論理的な人口が割り出せるものと推測されます。

尚、これらの研究は、大学などの参加が必須と思われ、産学官の共同で行いますので、作業自体がPR効果として有効です。

圏域住民が、これらの情報を共有すると、連帯感が生まれ育まれます。

③おくんち祭りの活性化

古くより、阿蘇神社は相良藩の神社で圏域の信望厚いものでした。又、多くの人で賑わいました。サーカスも来ていました。

古の活力復活に向け、10月9日は、圏域の学校は公休にします。役所も休みとし、圏域の人々が集まるようにします。

湯の前線は、貸し切りにします。無料で乗車できるようにします。球磨村発のバス・山江村なども整理券発行で無料乗車にします。駐車場は、市内の学校に設け、観光客で一杯にします。有料シャトルバスでピストン輸送しますので、無料券の元はすぐ取れます。観光客主体ではなく、地元が最優先です。（地域の祭りなので）

④SL人吉号の延伸

SL人吉号を湯前駅まで延ばします。尚、人吉駅で一両増やして連結します。

吉松駅にも延伸します。こちらは、2重連にします。（当面はディーゼル車と連結）

田園と歴史遺産ありです。旅程は、2日は掛かりますので、鉄道オタクは市内宿泊を余儀なくされ、日帰りが無くなります。

⑤33 観音の活性化

春一日、秋三日の開帳を伸ばします。春3日、秋5日程度に増やします。又は、前夜祭などにして延ばします。お接待をされておられる、地域住民の方々には、報酬を支払います。日当・提供する品代は支払います。

一方で、訪れる参拝者の人数・住所などの調査や、除草などで施設の管理も委託し、『おどんが観音さん』の意識を高めます。参拝者のデータはオープンにします。次の、呼び込みの資料としてつかえます。

3. 自然環境の活用

豊かな自然を有効に用いて、雇用の確保など、経済的にも豊かさを目指します。

① 自然動物園

五木村頭地地区に動物園を開設します。

飼育動物は、さる・鹿・イノシシ・雉など身近な動物が中心です。

肥育の技術も平易で費用も掛かりません。餌は圏域で調達できます。飼育作業も地区内の人担当するので、雇用を生み出します。

飼育舎は、見せる工夫を凝らします。身近な動物をじっくり観察することと、ジビエ料理を売りにします。

その他、魚類・植物など固有種を中心に地域に根付いた自然観察と触れ合いを目指したものを作ります。県内・外の、学校の見学コースの期待ももてます。

従来の、動物園と一線を画したものにします。

五木の持つ、既存観光資源に追加することを目的とし、これ一本での自立は望まず総合的な資源の一部に取り込みます。

その後、時間をかけて、鹿・サルの餌付けなど観光色を出して行く方策とします。

②建築制限と景観の修復

圏域では、高層ビル・ホテルの建設を景観保護と住民の誇り保持のため、一部制限します。又、圏域の山腹にある、人造構造物は撤去・改築・修復により、自然と調和した色調・デザインとします。これらを、圏域行政部署で条例化します。

盆地からの景観を緑多きものとし、崩落部やコンクリートを無くし、綺麗にします。

土木雇用も生まれます。

③石造り文化のPR

多良木駅の石造施設、人吉駅の石造施設など結構残っていますが、バラバラと各地に散っています。1つの石造施設周辺に多くの石造施設を設けて、面規模を多くし、観光地に向くようにします。

観光地の休みどころを、石造とするのも、夏季には有効かと。

④農生物の海外市場への展開

圏域の農産物を、中国・中近東の国々へ輸出します。

近隣3空港より発送します。当面は、イスラムの国へハラル先進企業に便乗させてもらいます。県内農協が窓口になります。

果物類を輸出します。高級品果実にこだわり、近隣の空港より空輸します。梨、栗桃、柿などが有力です。なかでも、「一勝地梨」は、その名前より、香港・中国上海等の漢字圏に輸出します。幸福駅の錦梨も追加します。

4. 交通機関など

観光地域と生活ゾーンをある程度分割します。又、効果的・効率的な観光ルートを設定します。

①観光ルートはハート型

車両例として、人吉ICで降り、球磨川左岸を錦経由で水上迄登ります。水上から、球磨川右岸をフルーティロードをあさぎり経由で降りてきます。その後、相良村の川辺川左岸を昇り、五木村から、右岸を降りて人吉市に入るルートを観光ルートとします。

（五木村右岸は、工事停止していますが、最後まで道路建設を進めます）
沿線には、決して大型ではないが、多くの遺跡資産・自然資源が一杯です。車と自動車・バス、自転車などとの組み合わせもできます。
湯山温泉と人吉市内が宿泊場所となり、ホテル・旅館の使用も増えます。
売りとして、雨宮神社、十島神社はハート型の中心に位置する、パワースポットです。

②観光循環バス

圏域を広くカバーする循環バス路線を開設します。
当バスには、観光客に限定せず、既設バスルート利用者や生活の足としても活用します。
圏域市町村運用の補助金で行います。資金は、一括プール運用にします。

③レンタカー乗り捨て自由（会社との連携）

九州内のレンタカーは、全て圏域での乗り捨て自由（無料）にします。
現在のレンタカーシステムは、同じ会社の県内乗り捨ては無料ですが、県外は有料です。また、別会社への乗り捨てはできません。
提案システムの例として、トヨタレンタカー鹿児島空港営業所出発車両を人吉営業所で乗り捨て、観光後、日本レンタカーで福岡駅に向かい乗り捨てしても、2回とも乗り捨て金額は無料にするものです。
阿蘇、天草、鹿児島、大分、宮崎などのほかの観光地を経済的・効果的・効率的に結ぶことができます。
ただ、当面は、同じ会社の九州内発着で、人吉営業所を経由することが条件であれば、レンタカー会社の協力を得る事に、期待が持てるのではないのでしょうか。
熊本・鹿児島・宮崎の中心に位置する、地の利を生かした戦術です。

④広域観光ルートの設定と連携

九州中央部に位置する、地の利を生かし、県内外の各種・各地域の事業者と、観光ルートの設定を進めます。

以下に参考例

(東京・大阪)→大分→圏域・人吉→宮崎→(東京・大阪)

(東京・大阪)→大分→宮崎→圏域・人吉→熊本→(東京・大阪)

(東京・大阪)→鹿児島→圏域・人吉→熊本→福岡→(東京・大阪)

(東京・大阪)→福岡→圏域・人吉→鹿児島→(東京・大阪)

高速バス、ホテル、圏域観光をセットした商品の開発などになります。

5. 地域住民の誇り

① 歴史の共有

先にも述べて通り、圏域住民に歴史背景を、機会を作り、講義するなどの方策で周知します。

また、シンボルマウンテン運動を行います。

白髪岳、市房山、高塚山など圏域地域のシンボルとなる山の意識を根付くようにします。

② 現在の位置付けの理解

圏域の支援を得るには、情報公開が原則であります。

たとえば、地域の食料自給率やエネルギー自給率など、誇りを持てる数値を知ることが励みにもなるのではないのでしょうか。

おそらく、圏域の電力・食料は、自給自足ができる数値になるのではと思われれます。

そして、文化遺産ありとなれば、京都・奈良に並ぶのではないのでしょうか。

何か、誇りとなる、日本一を作るのも。

5. 課題

① 住民のITへの追従と向上

都会では、日常生活に通勤バスや各種カードなどが決済に用いられるケースが多く、圏域内でもこれらに追従することが求められます。

これらの課題対策として、研修による教育訓練が必要になります。

たとえば、パート（一般主婦層？）勤務者など広く圏域の方々を対象として、官主導による、圏域内のボランティア講師を招いた研修会などは有効と思われれます。

レジ打、カード決済、おもてなしの作法（老舗旅館が講師？）などでは？

② 第三セクターの開設（実施事務部門）

交通機関の再構築や事務処理などの対応は、第三セクターで処置します。

市町村圏事務組合と民間企業とのセッティングが良いのでは。

民間は、目的ごとのタッグを組むことになるのでは。

東京事務所など、大消費地に圏域の窓口を設置し、営業業務をすすめます。

③ 受益者の平等化

本提案では、ホテル・観光関連業種などの特定の企業・団体に受益者が限定されることが予想されます。

雇用の確保を達成しつつ、受益者には各種施策の負担等を担い、圏域内に万遍なく、報酬が行きわたる取組みが必要になります。

そのことで、持続性のある圏域全員参加型の郷土創りが実現できます。

6. おわりに

圏域住民の誇りなどを引き出すインセンティブな活動を興し、地域の活性化を高めるなどの、ソフト中心の対策を進めることと併せて、具体的な設備投資などのハード施策を圏域が一体となる実行機関を定めて取り組むことが、圏域の雇用を守り、過疎・消滅を回避し、持続的のある、球磨人吉地方を後世につなげることが実現できる方策です。

人吉球磨定住自立共生ビジョン（案）について

ご意見 記入用紙

1 ご住所

2 ご氏名

ご意見

共生ビジョンの取組内容や目的、役割及び中心市宣言を拝見しましたが、まず中心市となる人吉市が中心市としての機能やリーダーシップを発揮していけるのか不安を感じます。産業や経済、観光の衰退は、目を覆うばかりです。中心市なら中心市としての今後10年20年先のビジョンをまず示し中心市としてどう周辺自治体と連携協力していくのか将来像を示すべきである。ただ周辺自治体の足りない部分の補完的關係なら必要はないと思います。将来像の見えない基本計画であり分野事の取り組みについても既存の問題のみをテーマにしており未来に向けた発想は何も感じません。

① 保健医療について

この人吉球磨の圏域で一番の課題は、中核病院の医師不足で常勤医師をいかに確保するかであり医師の確保なくして医療体制の充実などありえない。ある首長はスキルアップ出来る体制にない病院にはいい医師はこないと医師確保に消極的な首長もおり、市民町民の考えとは正反対な考えです。

圏域では、人吉医療センターと公立多良木病院が両翼であり住民の信頼に応えるためにも医師確保の体制を早期に構築し10年20年先まで安定した医療体制築くためにもシステム構築を共生ビジョンに取り入れるべきである。

また輪番制も、もっと在宅医を活用し在宅医が中核病院で当直医として診察を可能にする協力体制が必要と思います。

② 次に福祉について

障害者の方々への取り組みは充実していると思いますが今不足しているのは、高齢者介護施設であり不登校者などのフリースクールなどであり特に特養ホームが足りません。施設、職員数など圏域で抱える問題であるのに課題にも挙がらないのは、危機感がないのでしょうか。

③ 産業振興について

農業振興についても既存の拡大事業でしかなく、農業のIT化や後継者問題もなく未来的連携や協力についても期待は出来ない内容と思います。

④ 観光振興について

すでに既存の祭りやイベントでは、限界が見えている。2019年ラグビーワールドカップ2020年東京オリンピックが開催されるのに圏域では何も行動を起こさないのでしょうか。中心市と周辺自治体は、両ビッグイベントに参加出場するチームの本大会までのキャンプ地として立候補し誘致を目指すべきです。子供たちが世界のトップアスリートの実力を体験できるチャンスです。2002年のサッカーワールドカップの時の大分の中津村のように小さい町でも手を上げる、これこそが中心市と周辺自治体が協力して共生していける取り組みだと思いますが、経済効果や波及効果を考えてみて下さい。「周遊観光」と都市と農山村の交流を促す「着地型観光」を織り交ぜ地方から自分達の資源を生かしたプランを考え発信アピールすることが大事であり机上の計画でなく役場職員が現場に赴き状況を把握し政策に反映させ官民一体となって進める。

⑤ 結びつきやネットワークの強化について

取り組み事項が圏域内の既存の交通体系をどう整備していくかしか触れておらず現状を見ない聞いていないと思います。元気な高齢者は、いいでしょう、しかし現状は車やバスに乗ること事態が苦になっている高齢者が多く、今必要とされているのは週2回でも自宅近くまで来てくれる移動販売車や宅配車です。販売員との会話や近隣住民との会話も保たれていると結果が出ています。移動販売車の普及を考えてみては。

⑥ 域内マネジメント強化について

マネジメント強化は大いにやるべきです。視野を広げることが大事で職員の中には、優秀な人材もいるかわら、「井の中の蛙、大海を知らず」の職員がおり偏った政策で新しい発想がなく、「出来ない、やれない、前例がない」など言い訳が多い幹部や職員が多いので外を見て知識見識を深め外部の専門家にも意見できる人材が望まれる。

共生ビジョンですべきことは

- ・ 地域の資源を組み合わせる知恵
- ・ 人材育成を軸とするソフト面
- ・ 知恵をつなぎ協力しあえるネットワーク
- ・ 環境とエネルギー政策

そしてこの先100年幸せに暮らせる町を創るための仕組みではないかと考える。

最後に

この共生ビジョンは、中心市人吉市と他の4町5村が対等の立場であり中心市が周辺自治体に「連携してやってるんだ、協力してやってる」的な態度では、なりたない。

まして中心市が中心市としてふさわしく連携協力していけるだけの力量が実際備わっているのか疑問が残り災害で中心市が機能不全状態の事態の際の危機管理や防災管理や意識が薄いと感じます。

本ビジョンでは、安心、快適に暮らす形成にはほど遠く、一から将来像の見える具体的取組みに変えるべきです。住民の意思や思いが感じられず行政が勝手にやっていると言われかねない内容だと思えます。

以上